

2007-01  
**授業科目名/Subject**  
**社会学**

学科区分/Department	学年/Year	形態/Term	単位/Credits	カリキュラム Curriculum	クラス/担当者 Class/Instructor
国際関係学科 国際文化学科 国際交流学科 国際ビジネス情報学科	1	半期	4	新	服部 慶巨

■ **授業概要 / Outline**

- 授業のテーマ/Overall Theme for Course  
 ストレスと問題行動の社会学

- 授業のねらい/Goal

世の中は「自分の思い通りにいくものではない！」ということを理解しなければ、社会生活を成り立たせることは出来ない。では、どうすれば良いのか？—そんな疑問が起きた時こそ「社会学」の世界に足を踏み入れる良い機会である。本講義では、聴講学生にとって身近な話題を客観的に考察出来るよう配慮する。

- 授業の方法/Content

我々は「社会」という舞台の上で「人間らしく」振る舞う(演技すること)を期待されている。たとえば、ナースは病院・病棟において「ナースらしい」振る舞い(演技)が求められる。また、周囲の期待に応える努力も理解もせず、すぐ「キレる」「ムカつく」子供たちも増加している。こういった背景を理解するため、主として「社会」と「人間」のかかわりから生じるストレスと問題行動について講義する。教科書やプリントを用い、視聴覚教材を適宜利用し、理解の助けとする。

■ **授業計画 / Teaching Plan**

- 第1回 シラバス授業(講義の方針、展開方法、基礎概念、目標などの確認)
- 第2回 状況(情況)判断
- 第3回 社会(学)とは何か?
- 第4回 「社会的動物」としての人間(1) Double Happiness
- 第5回 「社会的動物」としての人間(2) 生理的早産
- 第6回 人間関係の諸相と構造(1) Human Being
- 第7回 人間関係の諸相と構造(2) 地位
- 第8回 人間関係の諸相と構造(3) 役割
- 第9回 人間関係の諸相と構造(4) アイドル工学
- 第10回 問題行動の根源(1) 行為と構造
- 第11回 問題行動の根源(2) 共感性の欠如と逆ギレ現象
- 第12回 問題行動の根源(3) 罪の無自覚
- 第13回 問題行動の根源(4) アノミーと犯罪
- 第14回 問題行動の根源(5) ヴァーチャル・リアリティと死生観
- 第15回 問題行動の根源(6) 誤対処(1)
- 第16回 問題行動の根源(7) 誤対処(2)
- 第17回 ストレスとは何か?(1) 概説
- 第18回 ストレスとは何か?(2) 非日常とコーピング
- 第19回 ストレスとは何か?(3) 癒しブーム
- 第20回 ストレスとは何か?(4) 人生縮小化傾向
- 第21回 社会意識と逸脱(1) 常識
- 第22回 社会意識と逸脱(2) 逸脱
- 第23回 社会意識と逸脱(3) 規範
- 第24回 基本的人間関係再考(1) 友情と恋愛
- 第25回 基本的人間関係再考(2) 恋愛の必要性

- 第26回 基本的人間関係再考(3) 恋愛の進行と対人魅力
- 第27回 基本的人間関係再考(4) 恋愛に伴う欲求と効果
- 第28回 補講日(1)
- 第29回 補講日(2)
- 第30回 まとめ

## ■ 教材 / Teaching Materials

- 教科書/Textbooks

著者名/Authors	服部 慶巨
書名/Title of books	補強版ストレス・スパイラル—悩める時代の社会学
出版社/Publishers	人間の科学社
ISBN	ISBN4822602389
備考/Notes	

- 必携参考書/Required reference books

プリント配布 / Handouts

- 推薦参考書/Recommended reference books

開講時に指示する / Announced during the first class meeting

## ■ 履修条件 / Prerequisites

単一的(主観的)な視点ではなく、客観的な分析・発言に関心のある学生の参加を希望する。

## ■ 成績評価 / Evaluation

終講試験と平常点で評価する。

## ■ その他 / Others

截拳道の創始者とされるブルース・リーは、「Don't think. Feel!」(考えるな。感じるのだ!)という名言を残している。この講義も、その感覚で参加してほしい。なお、社会学的コミュニケーション論に興味のある学生は、「日本社会」(後期開講)の履修も勧める。

## ■ 連絡先 / Contact Information

服部 慶巨

- オフィスアワー / 質問・相談は、講義の前後またはEメールで受け付けます。